



経営の散歩道

川中経営研究所
所長 川中清司

▼インテリジェントビル。それは建物全体に高度な情報通信機能を備え、空調、照明などを自動管理した情報化ビルをいう。

六つのビルには、研究に必要な高・低さまざまな温度、湿度と空調が供給され、ガス、給水は天井から配管し、一ユニットごとに個別制御エネルギーセンサーから、二十四時間の管理態勢がひかれる。

▼研究秘密を保持するために、IDカードによる入室管理、室内外をうつしだすITVカメラ、人体センサー、チェックなど、高度なセキュリティ（保安）システムがとられる。

▼レンタルラボ「貸し部屋・研究室」は、すでに立石電機など十五社で全部売り切れ、五百人の研究者が活動を始める。

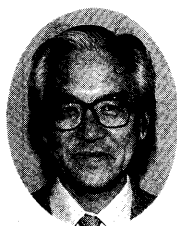
平成七年をメドに進められる第三次計画が終われば、全体敷地規模が七万平方メートルに達する巨大プロジェクトに、業界の熱い視線がそがれている。

▼結婚式に仲人が必要のように、企業の技術開発の世界でも、仲介の役割は大きい。

自分のもっている技術だけで世に出すことは不可能な時代となった。世界の技術を複合して

尖端の分野を開かねばならぬ。「そのためには、知識・技術・情報をキヤッチしておいて、各研究機関や企業に紹介し、結びつける「仲人役」が、リサーチ

パークの仕事の一つです」とKRPの遠藤浩社長は言う。



▼アメリカでは約二百のリサーチパークがあり、都心型、郊外型が半々。大学と研究機関が中心となつて、企業の育成支援の事業（インキュベーション・プログラム）など大きな成果を納めている。

ペンシルベニア大学や研究機関などの二十八団体が法人をつくり、フィラデルフィア市の西部市街地を再開発するとともに、一万八千平方メートルの総合研究施設

をつくりあげた。

一九七〇年から、育成支援（インキュベーター）事業を開始して、参加企業・研究機関は百社、政府機関三となり、六千人の研究者が働いている。

大学と科学の大都市・センサーでも言おうか。UCSC（ユニバーシティ・シティ・サイエンス・センター）と呼ばれるこの拠点は、若き研究者たちの発想と研究結果にもとづいて、すでに百五十の新しい企業を誕生させ、五千人の雇用を創

第十七回

京都の起業拠点

その2

出すというすばらしい実績を記録している。

▼KRPの京都府と市の指導・試験機関のスペースは、一万三千平方メートル。そこには次のように施設が準備・公開され、いつでも利用することができる。

開放分析センターⅡ電子マイクロアナライザー・三次元コンピュータグラフィックス・材料組成分析のX線光電子分光分析装置・フーリエ変換赤外線分光光度計など。

▼メカトロニクス——それは機械工学（メカニズム）と、電子工学（エレクトロニクス）とが融合したもの。さらにコンピュータのソフトウェアが結びついた、新しい技術の世界だ。

財）アステムⅡ京都高度技術研究所は、メカトロニクスとコンピュータの分野で、共同研究や委託研究、教育研修の役割を担う。コンピュータ援用の設計・製造（CAD・CAM）での企業支援も行う。

▼一階のレストラン「ブレッド・バスケット」は、一般市民にも開放されていて、明るさと気軽さを中心に「食」を担当する。

五階のサイエンスホール。太陽の光を天井いっぱいにとり入れ、青空のもとのミートイニングが可能だ。スイッチひとつでスクリーンカバーし、映写室に早がわりできる。

全体に十分すぎる空間をとっており、各ビルは二階部分を共通ロビーで結び流動性を高めている。

▼ストレスに疲れた研究者たちが、気軽に安く飲んで憩うバー「ザトラ」には、カウンタにボトル、ゆったりとしたソファが準備されている。

技術を越え、垣根をとりはらった閑談の中から、信頼と提携の心の広場づくりが期待されている。